

京都「哲学の道」と法然院

京都に行って歩きたくなるのが「哲学の道」だ。東山山麓の若王寺あたりから銀閣寺に至る2*₆余りの疎水沿いの道である。哲学者・西田幾多郎がこの道を散策しながら、思索を重ねたことから命名されたという。まだ朝早かったので人影も少なく、じつに心地よい気分で散策できた。疎水沿いの椅子に腰掛けて、山麓の緑と疎水の流れを見るだけで、なんとなく心がなごむ。途中で道端を掃除している地元の人に出会ったが、感謝の気持ちを伝えようとひと言挨拶した。



道から山の方にすこし進むと、法然院が見えてくる。この寺は浄土宗開祖・法然上人が阿弥陀仏の本願を説いた念仏道場を開いたことが始まりという。石段から茅葺の屋根が見えてくる。この屋根と向こうに広がる木々の調和、光のコントラストがなんともいえない。寺に入ると季節感を味わえ、まるで別世界に吸い込まれるような気分になる。



人影もまばらで、ゆっくりと散策するのがよい。銀閣寺や清水寺もよいが、最近はとくに法然院のような静寂さと味わいを感じられる寺が気に入っている。



（2008年11月22日 記）

（2008年11月22日 記）